

京都と鴨川・千二百年の時を経て、 そして未来に引き継ぐために

鴨川を美しくする会

鴨川は四神相応の考えから平安遷都に深く関わり、以来、能や歌舞伎など優れた文化を育む一方で、白河法皇の「天下三不如意」にあげられるほどの暴れ川にその姿をかえ、千二百年にわたる京都の歩みとともにたえまなく流れてきた。その流れは北山や東山を望む美しい景観とともに、今なお、山紫水明の京都の象徴として多くの人々に愛され、親しまれている。



鴨川上流域を望む

鴨川の概要

鴨川は京都市北西部の棧敷ヶ岳をその源流とし、雲ヶ畑を経て、鞍馬川を加えた後、上賀茂付近で京都盆地に流れ出る。その後、出町付近で、京都市の北東から大原、八瀬を流れ下ってきた高野川と合流し、さらに四条大橋上流で白川を加えた後、京都市内の中心部を貫流しながら南西方向に流れを変え、下鳥羽付近で桂川に注ぐ。

鴨川の流域面積は約207.7km²、幹川流路延長は約33kmであるが、河床の平均勾配は1/200(上流約1/100、中流約1/350、下流1/600)と急流であり、これは、東寺の五重塔(高さ57m)の頂上とその約8km上流に位置する北山通がほぼ同じ標高であることからもうかがえる。

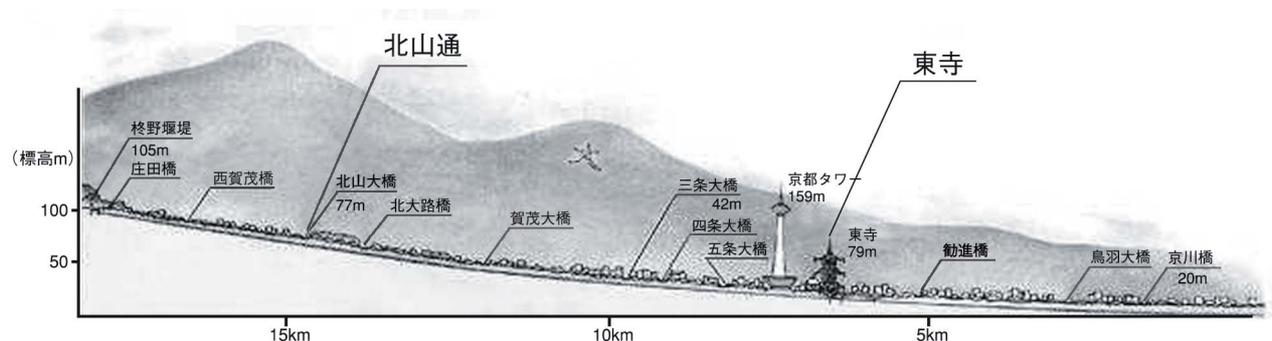
鴨川美化から街の美化へ

私たちの会は1964年(昭和39年)東京オリンピックの年に地域住民によって鴨川を美しくするために結成されたボランティア団体です。

当時の日本は高度経済成長時代の流れで古き時代から新しい時代に変貌をしつつある状況で、京都の顔である「鴨川」も同様でした。

河川敷にはゴミが散乱、夜になれば橋の上から不要になったタンクや古畳等の不法投棄があり、まるで川がゴミ捨場となり、山紫水明と言われたきれいな水も1943年(昭和18年)ごろから京都の伝統産業である友禅の工場排水などが徐々に鴨川本流や流域の川に流入しました。

時間帯によっては七色の川となり魚も住めない状



河底勾配図



鴨川納涼会場を三条大橋より望む



鴨川コーナーにて
鴨川に生息する魚の紹介



美化活動啓発写真
パネルコーナー



昔なつかしい友禅流しの再現



鴨川納涼 ステージ

況となっております。

そして、鴨川での友禅流しが水質汚濁の原因となっていたことを重視し、当会として各事業所に中止を求め工場内の污水处理装置にて処理することで少しずつきれいな水となり1971年（昭和46年）に水質汚濁防止法が施行されました。

河川敷のゴミを無くし、昔のような美しい鴨川を取り戻そうと立ち上がり管理行政と力を合わせ河川美化運動の輪を広げる原点になりました。

まずはゴミ拾いからと年4～5回の定例清掃活動（鴨川クリーンハイク）を継続活動として毎年実施、しかし乍らゴミが減るところか増える一方でした。

そこで何か良い方策はと思い、結成5周年を機に多くの市民に鴨川に来て頂き、鴨川を親しみのある川にするため1969年8月（昭和44年）に鴨川右岸河川敷三条～四条間にて河川美化啓発活動「第1回鴨川納涼」を開催し、以後毎年夏に実施。

現在では150団体を越す協賛協力を得て開催、昨年も第37回を盛会裡のうち無事終了させて頂きました。

同様に1973年4月（昭和48年）からは府立植物園西側の鴨川河川敷に散策路として整備された「なからぎの道」に京都鴨川ライオンズクラブによって植樹された紅しだれ桜を鑑賞し、煎茶道二條流家元のお茶席と生田流、琴の演奏協力を得て鴨川美化啓発活動「第1回鴨川茶店」を開催、今では府市民をはじめ他府県からの花見の観光コースにもなっており河川美化の啓発普及に役立っており、今年の第33回鴨川茶店も大盛況にて無事終了させて頂きました。

“子どもたちに美しい川をのこそう”を合い言葉に長年様々な活動を展開中、地域ぐるみで一斉清掃の機運が高まりました。

1994年秋に第1回「鴨川合同クリーンハイク」



鴨川茶店 ステージ



鴨川茶店 お茶席コーナー



鴨川茶店会場を北大路橋より上流を望む



鴨川合同クリーンハイク 出発風景



鴨川合同クリーンハイク 清掃風景



環境学習



子どもたちによる鴨川の水質、水生昆虫実態調査

を開催、上流から下流まで約12kmを流域の子どもたち、住民、団体、企業などのグループが参加しています。

多い年には1,700名を越える状況で鴨川は国際文化観光都市、京都にとって「誇れる川」になってきたと思われます。

数年前からは運動の輪の広がりが「街の美化運動」にも運動してきたことは大変喜ばしい事と思います。

1998年に流域の小学校から総合学習の一環で鴨川の美化活動や環境学習について講師依頼があり、それをきっかけに課外学習に取り組み「鴨川の水質や水生昆虫の実態調査」を流域の子どもたちと実施しております。

子どもたちが鴨川の環境について学び、川の大切さを理解していくことを目的としています。

平成17年度から使用の文部科学省検定済教科書、「新編 新しい社会」5下や資料集、大百科、問題集にも取り扱われました。

鴨川的环境学習については、京都はもとより、新潟、神奈川、千葉、福井、三重、山口県などの各中学生や他府県の小学校教諭が鴨川的环境や活動について研修に來られます。

子どもたちからは後日、お礼の手紙や勉強の成果資料などを多数頂き、なかには『私たちの学級も地域の川の美化に取り組んで行くことになりました』との嬉しい内容もありました。

また、海外からは外務省の招請で中国の新華社通信上海分社副総編集長や韓国SBS.TVも美化活動等について視察や取材に來られ、都市河川としてのその景観に感激されておられました。

2003年第3回世界水フォーラムでは鴨川四条大橋上流に歓迎幕設置、京都や滋賀流域分科会等に参加協力。

私たちの運動は先駆者の意志を継承し、「美しい鴨川」が人々の癒しの場として、川との触れ合いにより自然との共生できる社会になっていくことを切に望んでおります。

鴨川河川パトロールを4～5年に一度当役員と関係行政、報道関係、流域河川愛護団体、自然保護団体、団体会員等各代表と実施。

鴨川の源流域～下流域までをつぶさに視察、鴨川の現状を把握し、後日、鴨川美化推進懇談会を実施し、今後、それぞれの立場において鴨川美化の



美化活動が紹介された教科書など



水フォーラム歓迎幕

ために努力をして頂く。

会の構成、今では委員、個人会員約80名、団体会員約290団体のご支援のもと、様々な活動を展開中です。

昨年、10月に新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ国際会議室において「第2回きれいな水と美しい緑を取りもどす全国大会」にて最優秀賞である「環境大臣表彰」を受賞しました。

大変名誉なことと深く感謝しております。

平成19年度には鴨川の管理者である京都府においても悠久の都、京都が世界に誇れる「美しい鴨川」であるように京都府鴨川条例(仮称)の制定に向かって準備中とのこと、河川愛護活動が官民一体となって継承されるように願っております。

会長 畑 登司夫

鴨川 WALK 散歩

